

広島市告示第325号

令和7年6月16日

広島市名誉市民条例（昭和37年広島市条例第17号）第8条の定めるところにより、広島市特別名誉市民として次の者を顕彰しました。

広島市長 松 井 一 實

氏 名 故 マルセル・ジュノー

功績概要 別紙のとおり。

## 功 績 概 要

故マルセル・ジュノー博士は、被爆後の広島に多くの医薬品を届け、自らも医師として献身的に被爆者の救援活動に尽力されるなど、被爆者に生きる勇気と希望を与えました。

スイスの医師であった博士は、昭和20年（1945年）8月9日、赤十字国際委員会の駐日代表として来日され、広島原爆被害の惨状について報告を受けると、直ちに連合軍最高司令官総司令部（GHQ）と交渉し、医薬品や医療材料の提供と広島への運搬の約束を取り付けました。同年9月8日に、調達した15トンの医薬品を携えて自ら広島に入り、市内各所の救護所を視察し、被害状況の調査に当たるとともに、被爆者の治療もされました。博士が調達した大量の医薬品によって一万人以上の命が救われたとされています。

また、博士は、昭和21年（1946年）に帰国後、赤十字国際委員会から、原子爆弾による惨状とその非人道性についてのアピールを発出し、世界に向けて核兵器の非人道性を訴えられました。

こうした博士の功績は広島ではよく知られており、平和記念公園南側の緑地帯に、昭和54年（1979年）に博士の人的行為を讃える顕彰碑が建立されたほか、平和記念資料館内に、博士の尽力により提供された医薬品が展示されています。また、被爆後、臨時の救護所となった袋町国民学校（現袋町小学校）で多くの被爆者の救護に当たった功績を称え、同小学校西側に、博士の生誕100年となる平成16年（2004年）に「マルセル・ジュノー広場」が整備され、肖像入りレリーフが設置されました。

また、博士は多くの市民からも長く愛されており、平成2年（1990年）以降、新型コロナウイルス感染症により中止となった令和2年（2020年）及び令和3年（2021年）を除く毎年命日の前後に、博士の遺徳を偲び、平和の尊さを青少年に伝えるため、顕彰碑の前で「ジュノー記念祭」が執り行われています。

以上のように、故マルセル・ジュノー博士は、被爆後の広島で、被爆者に寄り添い、救援活動に尽力され、本市が希求する世界恒久平和の実現に大きく寄与されました。その功績は誠に顕著であります。